

事業概要

九電グループは、いつの時代においても、お客さまに電力・エネルギーをしっかりと届けるとともに、社会・生活の質を高めるサービスを提供することを通じ、快適で環境にやさしい持続可能な社会の創造に貢献します。

将来を見据えた電力の安定供給

電気事業においては、安全を最優先に、質の高い電気を安定的かつ効率的にお客さまにお届けし続けることが私たちの基本的使命であり、最大の社会的責任と認識しています。そのため、電力需要の動向に的確に対応し、効率的な設備形成を図るとともに、停電減少に向けた取組みや設備運用・管理の高度化、大規模災害時における早期停電復旧に向けた取組みなどを通して、これまで高めてきた供給信頼度水準を引き続き維持していきます。

エネルギーを取り巻く情勢

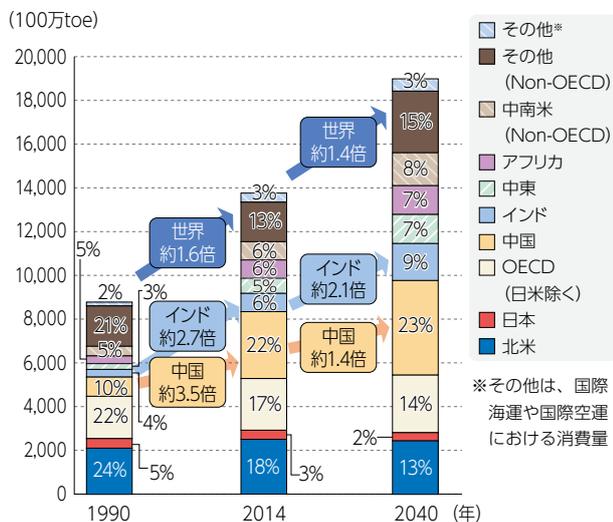
世界では、中国やインドなどアジア地域を中心に、経済発展や人口増加に伴い、エネルギー消費量が増加しています。今後も増加が見込まれ、石油や石炭などの資源に限りがある中、消費国による資源獲得競争の激化が予測されています。

特に、エネルギー資源に乏しいわが国は、エネルギー

自給率が7%と低く、大部分を海外からの輸入に頼っており、世界の情勢に大きく左右されるため、エネルギーセキュリティの確保が極めて重要です。

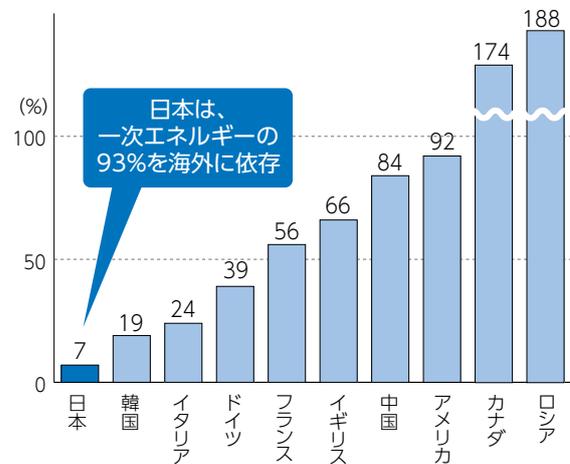
さらに、地球温暖化への対応として、CO₂(二酸化炭素)等の温室効果ガスの排出削減に向けた取組みが、喫緊かつ持続的な課題となっています。

●世界のエネルギー消費の推移と見通し(2040年)



(注1) toeは、tonne of oil equivalentの略であり、原油換算トンを示す
 (注2) 2040年のエネルギー消費量の見通しは、レファレンスケースで作成
 出典：IEA「WORLD ENERGY BALANCES 2016」、
 日本エネルギー経済研究所「エネルギー・経済統計要覧2017」をもとに作成

●主要国のエネルギー自給率(2015年)



(注1) IEAでは、原子力発電の燃料となるウランは一度輸入すると数年間使うことができるため、原子力をエネルギー自給率に含めている
 (注2) エネルギー自給率(%)=国内産出/一次エネルギー供給×100
 出典：IEA「WORLD ENERGY BALANCES 2017」をもとに作成

電源開発計画の基本的な考え方

当社は、エネルギーの長期安定確保および地球温暖化対策の観点から、安全・安心の確保を前提とした原子力の推進や、風力や太陽光などの再生可能エネルギーの積極的な開発・導入、および火力の高効率化などを推進してきました。

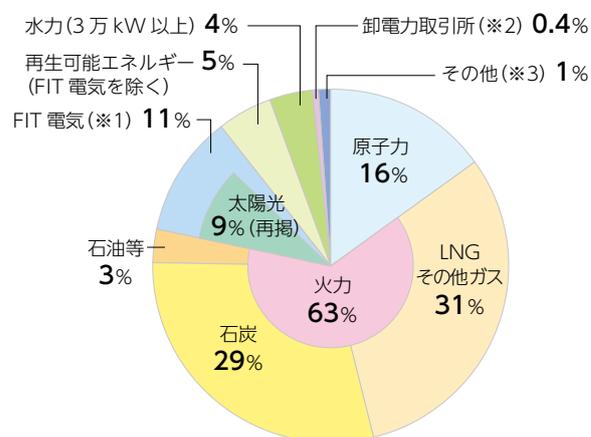
今後の電源開発計画については、競争力と安定性を備えた電源の確保に努めるとともに、国のエネルギー政策の動向等を踏まえ、バランスのとれた電源開発を検討していきます。

(今後の電源開発計画は、2018年7月公表予定)

電源構成・CO₂排出係数

●電源構成(2017年度)

当社の2017年度の電源構成は以下のとおりとなっています。



(※1) FIT (再生可能エネルギーの固定価格買取制度) 電気

当社がこの電気を調達する費用の一部は、当社のお客さま以外の方も含め、電気をご利用のすべての皆様から集めた賦課金により賄われています。このため、この電気のCO₂排出量については、火力発電なども含めた全国平均の電気のCO₂排出量を持った電気として扱われます。

(注) 太陽光、風力、水力(3万kW未満)、地熱およびバイオマスにより発電された電気が対象となります。

(※2) 卸電力取引所から調達した電気

この電気には、水力、火力、原子力、FIT電気、再生可能エネルギーなどが含まれます。

(※3) その他

他社から調達している電気で発電所が特定できないもの等が含まれます。

(注)

・経済産業省の制定する「電力の小売営業に関する指針」に基づき、算定・公表しています。

・当社が発電した電力量および他社から調達した電力量を基に算定しています。(離島分は含みません)

●CO₂排出係数(2017年度)

当社の2017年度のCO₂排出係数(調整後排出係数)は、0.463kg-CO₂/kWhとなっています。

原子力発電の重要性

原子力発電については、国の「エネルギー基本計画」において、「重要なベースロード電源」と位置付けられており、さらに、「長期エネルギー需給見通し」において、2030年度の原子力比率を20～22%とする電源構成

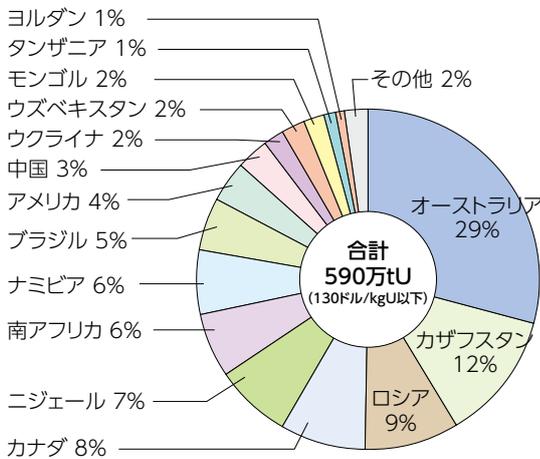
比率が示されました。当社としても、原子力発電は、エネルギーセキュリティ面や地球温暖化対策面などで総合的に優れていることから、安全の確保を前提として、その重要性は変わらないものと考えています。

燃料の供給安定性

原子力発電の燃料となるウランは、石油や天然ガスに見られるような特定地域への強い偏在がないため、資源確保の観点から供給安定性に優れています。

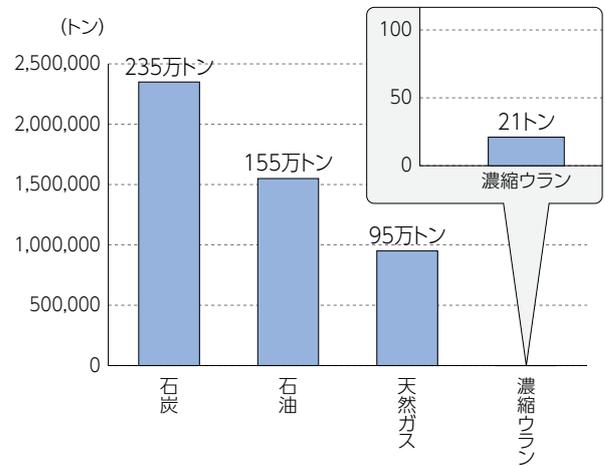
また、ウランは石油等の化石燃料に比べて少ない量で発電を行えるため、輸送や貯蔵が容易です。

●世界のウラン資源の埋蔵量



出典：電気新聞「原子力ポケットブック2015年版」

●100万kWの発電所を1年間運転するために必要な燃料



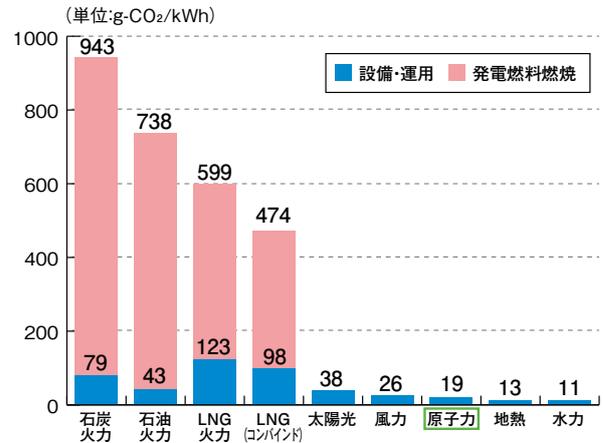
出典：電気事業連合会「原子力・エネルギー図面集2016」をもとに作成

地球温暖化への対応

原子力発電は、発電過程において、地球温暖化の大きな原因となるCO₂を排出しない電源であり、地球温暖化への対応を図る上で重要な役割を果たします。

なお、太陽光発電や風力発電は、原子力発電と同様、発電時にCO₂を排出しない電源であるものの、導入コストが高く、かつ、自然条件に左右されるなどの理由から利用率が低い等の課題があります。

●各種電源のライフサイクルCO₂排出量



※発電燃料の燃焼に加え、原料の採掘から発電設備などの建設・燃料輸送・精製・運用・保守などに消費されるすべてのエネルギーを対象としてCO₂排出量を算出。
出典：電力中央研究所報告書をもとに作成

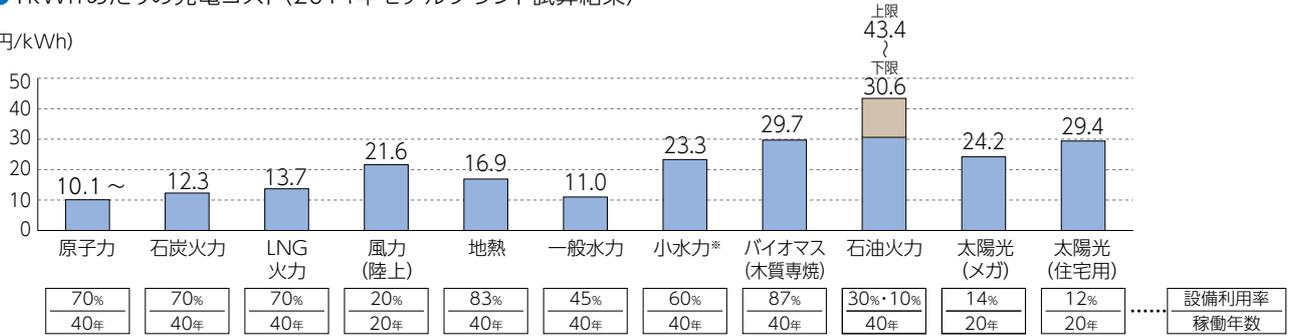
経済性

2015年5月に長期エネルギー需給見通し小委員会発電コスト検証WGで取りまとめられた報告書においても、原子力発電は、LNG火力や石炭火力などの他の主要な電源と比較して、経済性に遜色はない結果となっています。

また、原子力発電は、化石燃料を用いる火力発電に比べて発電コストに占める燃料費の割合が小さいため、燃料価格に左右されにくいという特徴があります。

●1kWhあたりの発電コスト(2014年モデルプラント試算結果)

(円/kWh)



※建設費 80万円/kWの場合

出典：長期エネルギー需給見通し小委員会発電コスト検証WG「長期エネルギー需給見通し小委員会に対する発電コスト等の検証に関する報告」(2015年5月)

長期安定的な供給に向けた研究・開発への取り組み

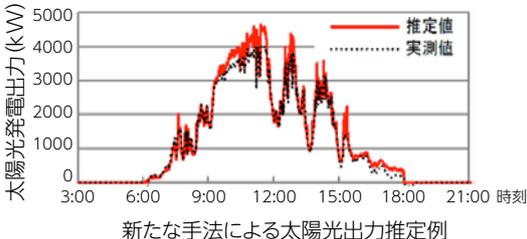
スマートグリッドや再生可能エネルギー利用拡大に関する研究

● スマートグリッド実証試験

太陽光など出力が不安定な再エネが大量に普及した場合においても、高品質・高信頼度の電力供給が維持できるよう、将来のスマートグリッド構築に向けた技術的な課題解決のため、佐賀県玄海町と鹿児島県薩摩川内市に太陽光発電設備や蓄電池などの試験設備を設置し、2011年4月から実証試験を実施してきました。

2017年3月までに、当初の目的の研究成果が得られましたので、実証試験を終了しました。主な成果は以下の通りです。

● スマートグリッド実証試験の主な成果

需給面	<ul style="list-style-type: none"> ○ 太陽光出力推定手法の確立、精度向上 <ul style="list-style-type: none"> ● 日射量実績値・予測値から、全系の太陽光出力を推定する手法を確立 ● 日射計配置数・配置位置の適正化、日射量から太陽光出力を換算する係数(PV出力換算係数)の精度向上 <ul style="list-style-type: none"> ● 日射計[気象官署] (8か所) ● 日射計[事業所] (38か所) ● 測定値が有効な範囲(半径20km) ○ 蓄電池の基本性能把握、最適制御・配置手法の確立 <ul style="list-style-type: none"> ● 蓄電池システムの効率特性、運転損失、応答特性等機器特性を把握 ● 潮流制約や電圧制約を改善する系統用蓄電池の配置方法を導出 ○ 需給調整を単一エリアで行う「部分最適化」と、複数エリアを協調運用する「全体最適化」の比較 <ul style="list-style-type: none"> ● 太陽光大量連系に寄与するエリア内蓄電池の充放電制御方法を確立 ● 複数エリアを協調運用(全体最適化)することによる効果を導出
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 配電線単位の太陽光出力推定 <ul style="list-style-type: none"> ● 現行の推定手法における推定精度の分析や、センサー付開閉器の計測値を用いた新たな推定手法の実用性を検証 
電圧面	<ul style="list-style-type: none"> ○ 電圧制御方式の最適化 <ul style="list-style-type: none"> ● 電圧を適正に維持するための効果的な制御機器の整定、配置の考え方を検討し、太陽光導入量に応じた電圧対策を整理 ● 複数の電圧調整機器を同一配電線に設置した場合、動作干渉を起こす恐れがあるため、回避する手法を実証試験やシミュレーションにより確認

● 薩摩川内市実証試験場(寄田中学校跡地)

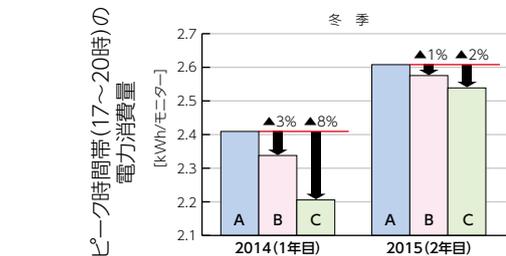
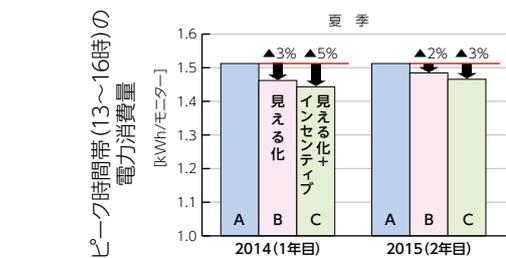


- 「見える化」や「料金インセンティブ」によるピーク時間帯の電力使用抑制効果の検証
 - 一般家庭モニターを3グループに区分して、抑制効果を比較、確認

グループ	適用区分
A	見える化、インセンティブともなし
B	見える化
C	見える化+インセンティブ

	1年目	2年目
見える化による効果	3%程度	1~2%程度
見える化+インセンティブによる効果	5~8%	2~3%

お客さま面

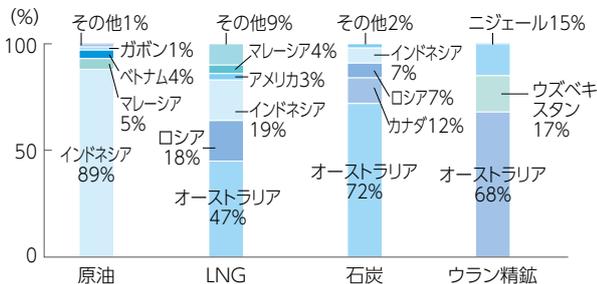


- 2カ年における電力使用抑制効果の検証
 - 2年目(2015)の抑制効果は、1年目に比べて低下傾向にあることを確認
- 料金インセンティブ単価(50・100・150円/kWh)と抑制効果の関係性の検証
 - 単価を変動させても、抑制効果向上は、殆ど無いことを確認

燃料調達力強化への取組み

電力システム改革により業界の垣根を越えて競争が進展しているため、燃料調達における競争力、柔軟性の一層の強化が求められています。このため、燃料バリューチェーン全域に積極的に関与することにより、バリューチェーン間のシナジーを増幅し、総合的な燃料調達力を強化します。特に、燃料トレーディングの導入や上流権益への投資などにより、柔軟性の向上と競争力の強化を図り、さらに電力取引と一体運用することで需給運用を最適化し、グループとしての利益最大化を図ります。

●燃料調達状況(2017年度実績)



【参考1】燃料バリューチェーンへの関与(実績)

<上流権益の取得>

燃料を長期安定的に確保するため、2007年からカザフスタン共和国の新規ウラン鉱山開発・生産プロジェクトに参画しているほか、2010年にフランス新規ウラン濃縮工場プロジェクトへ、2011年にオーストラリアの新規LNG開発・生産プロジェクトへ参画するなど、上流権益の取得を進めています。

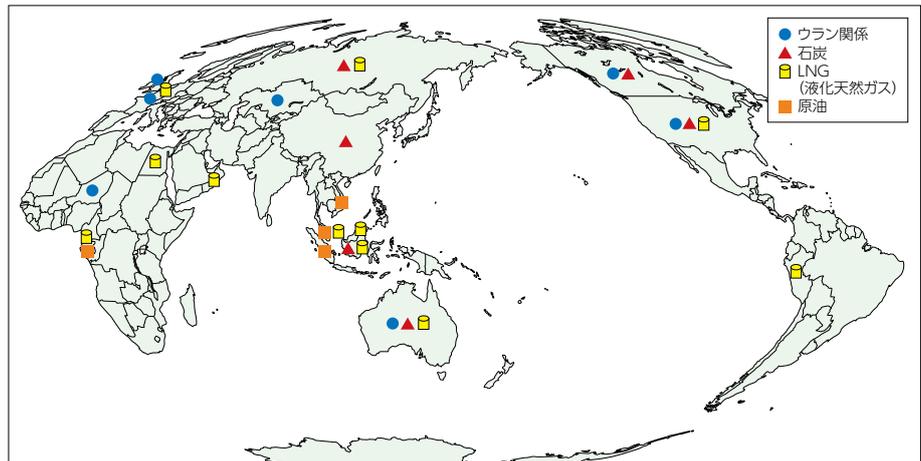
<燃料輸送への関与>

2009年4月に就航した自社LNG輸送船(パシフィック・エンライトウン)や当社石炭輸送専用の契約船などの運航を通じ、輸送コストの低減と安定調達の実現を図っています。

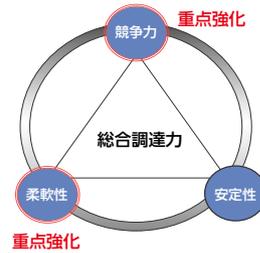
【参考2】他社とのアライアンス

他LNG買主との連携によって、所要量の変動に柔軟に対応できる体制の構築を図っています。

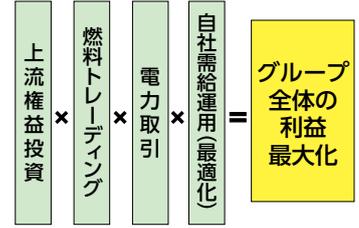
燃料の海外調達先▶
(2017年度)



【総合的な燃料調達力】



【需給運用最適化による効果】



【燃料調達力強化に向けた方策】

方策	競争力 (収益性)	柔軟性 (数量調整)	安定性
調達規模の確保	他社とのアライアンス (共同調達、緊急時の融通等)		
調達時期の最適化	市況軟化局面での調達	トレーディング (売買両建て)	供給源の多様化 価格決定方式の多様化
調達の多様化	標準・低品位燃料の使用拡大		
需給運用の最適化	電源の経済運用 (メリットオーダー)		

ウラン鉱山プロジェクトへの参画(2007年9月) (カザフスタン共和国)

- 鉱山名: ハラサン鉱山
- 生産量: 5,000トン(MTU)/年
- 引取量: 50トン(MTU)/年

ウラン濃縮工場プロジェクトへの参画(2010年11月) (フランス)

- 工場名: ジョルジュベスII
- 生産量: 7,500トン(tSWU)/年

LNGプロジェクトへの参画(2011年9月) (オーストラリア)

- プロジェクト名: ウィートストーン・プロジェクト
- 生産量: 890万トン/年
- 引取量: 83万トン/年(権益分: 13万トン/年、購入分: 70万トン/年)

長期的に安定した効率的な設備の形成・維持

基幹系統工事の着実な推進

電力流通設備については、需要動向、供給信頼度、設備の安全面や運用面、コスト等を総合勘案し、長期的な観点から効率的な設備形成を図っています。

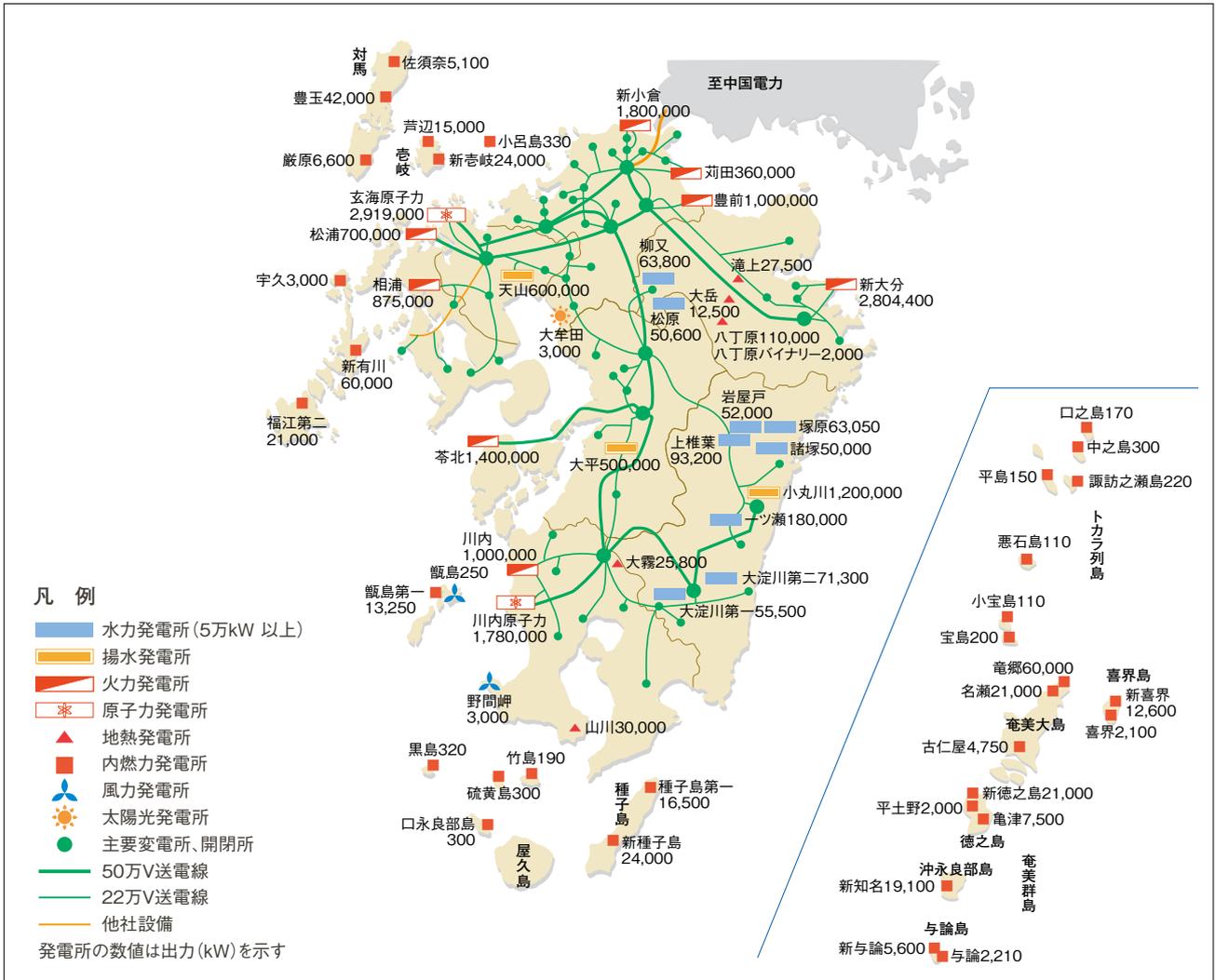
当社は、今後実施予定である50万V老朽設備の更新工事中に広範囲の停電が生じないように基幹系統を構築することに取り組んでおり、現在、50万V日向幹線(大分県一宮崎県間)の建設を進めています。

計画的な設備更新

今後は、経済成長に伴う電力需要の伸びにあわせて建設した設備の高経年化が進展していくことから、長期的に安定した設備維持を図るため、経年の進んだ送電設備(鉄塔、電線ほか)、変電設備(変圧器、遮断器ほか)、配電設備(電柱、電線、柱上変圧器ほか)などに対する重点的な点検・補修や、計画的な設備更新に取り組んでいます。

なお、設備不具合・劣化データの分析結果を踏まえた設備の寿命推定精度の向上にも積極的に取り組み、高経年設備の更新計画に反映させています。

●主要供給設備(2018年3月末現在)



将来を見据えた電力の安定供給に関する研究・開発

褐炭資源有効活用への取組み

褐炭は、埋蔵量が豊富ですが、水を多く含むなど、使いにくい石炭です。現在日本では利用されていませんが、急激な石炭資源消費が進展するなか、この褐炭の活用が世界中で注目され始めています。

当社は、世界の褐炭資源の約1/4を保有するオーストラリアのビクトリア州と協力関係を結び、褐炭の有効活用に向けた研究に取り組んでいます。

これまでの研究で、褐炭を使いやすく改良する技術上の目処がたっており、今後、低廉で安定した発電燃料として活用するため、さらに研究を進めています。また、ビクトリア州の褐炭は灰分が少なく、発電後の石炭灰の大幅削減効果も望めます。



ビクトリア州褐炭採掘現場

余寿命診断技術に関する研究(設備の経年化診断)

火力発電所のボイラーやタービンなどは、高温・高圧での長期運転により材料の劣化が進むことから、あとどのくらい使用可能かを的確に判断する余寿命診断技術を確立し、設備の安全運転を図る必要があります。

当社では使用されている材料毎に金属組織変化を指標とした余寿命診断技術を構築しています。

この診断技術により、発電所のオーバーホールのタイミングで余寿命診断を行い、取替えの要否や今後の取替計画に反映させています。

初期の金属組織 → 金属組織の劣化の進行



大型変圧器の異常診断技術の開発

雷や地震により、変圧器内部の巻線に異常が発生することがありますが、部分的なショートなどの場合、既存の診断手法では状態推定が難しく、時間と費用をかけて内部点検を実施しなければならない場合がほとんどです。

このため、当社では周波数応答解析法(FRA)^{*}の研究を進めています。従来は波形の目視に頼っていましたが、評価指標による診断基準を構築し、実際に地震で被災した変圧器に適用したところ、内部点検と同じ結果が得られ、有効性が確認できました。これらの成果を踏まえ、2018年度より現場の変電機器保全業務への展開を予定しています。



大型変圧器

^{*}変圧器に数ボルトの電圧をかけ、周波数を10Hz～1MHzまで変化させたとき、正常時と異常時で得られる出力波形が異なることに着目した診断手法

送電鉄塔の腐食対策

送電線を支える鉄塔は、長時間使用していると錆が発生します。錆が出ないように通常は亜鉛メッキを施していますが、鉄塔をより長期間、安定的に使えるよう、発生した錆の進展を抑制する錆安定化剤や塗料の検証と評価を行い、優れた錆安定化剤等については、実際に簡易な補修方法として採用します。

●錆安定化剤の活用例(錆を落とすのが難しい箇所)



錆安定化剤を塗布し、塗装の耐久性を確保

付加価値の高いサービスの提供

省エネ・省資源に貢献する技術開発の推進

農業分野の省エネに関する研究

省エネ技術として、業務用及び家庭用を中心に普及が進んでいるヒートポンプを農業用ハウスの暖冷房空調に採用した温室栽培の研究に取り組んでいます。

作物の生育・品質面でのヒートポンプの優位性実証研究や農業用ヒートポンプ高効率化の研究等を行い、省エネとCO₂の削減を目指すとともに、省エネ空調等の技術・ノウハウを基に、技術コンサル活動を展開しています。

●ヒートポンプ利用によるトマト栽培状況



3ピース型[※]ヒートポンプに関する研究

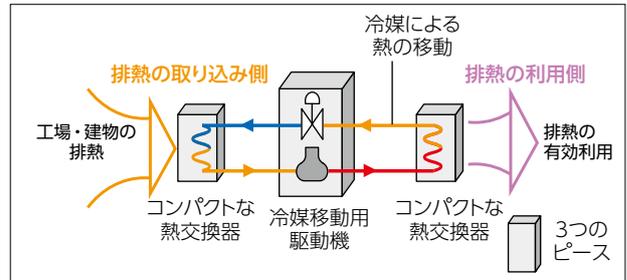
工場や建物等から発生した排熱は、ほとんど利用されないまま無駄に捨てられています。

当社は、この未利用エネルギーに着目し、安価で効率よく熱を回収することを指向した3ピース型ヒートポンプの技術開発に取り組んでいます。

本ヒートポンプは、熱交換器がコンパクトであるため、排熱源付近に柔軟に設置できるメリットがあります。

このヒートポンプの普及により、未利用エネルギーが有効に活用できるようになれば、業務用・産業用分野の更なる省エネ効果が期待できます。

●3ピース型ヒートポンプによる効率的な熱の回収



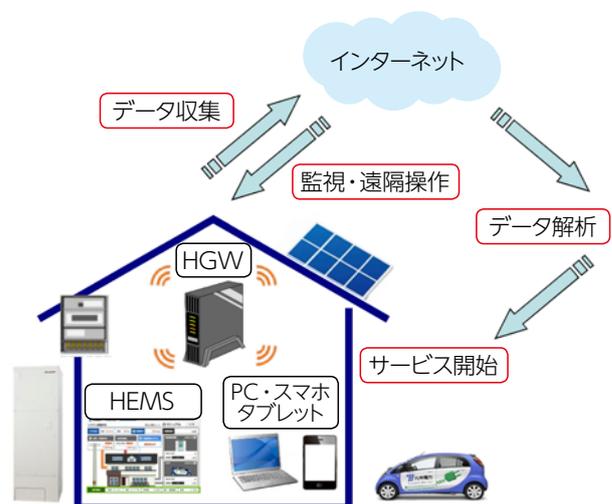
※2つのコンパクトな熱交換器と冷媒移動用駆動機の3つのピースで構成されていることから、3ピース型と呼ぶ。

家庭内の省エネに関する研究

実験住宅「インテリジェントハウス」を当社総合研究所に設置し、電気利用技術やITを活用した家庭内の省エネに関する研究に取り組んでいます。

これまで、実験住宅内に、自然の風を利用した自動換気システム、家庭内の電力使用を効率的に管理するHEMS、太陽光発電や蓄電池等の試験装置を設置し、ライフスタイルに合わせた省エネ技術の提案に向けたさまざまな研究を行ってきました。

現在は、電力使用量データやIoT技術を活用した新たなサービス開発に関する研究を行っています。



海外事業の展開

九電グループでは、国内の電気事業を通じて蓄積した経験、ノウハウ及び高い技術力を有する人材を活用し、アジアを中心としたIPP等投資事業並びに海外コンサルティングを展開しています。

これらの取組みを通じ、需要が急増しているアジア各国における電力の安定供給、環境対策及び人材育成に貢献するとともに、海外ビジネスに取り組んでいます。



インドネシア サルレー地熱IPPプロジェクト 初号機全景



ホームページ

- 九州電力(株): 企業・IR情報 → 会社情報・CSR → 会社概要 → 海外電気事業の取組み
- (株)キューデン・インターナショナル (<http://www.kyuden-intl.co.jp/>)

●2017年度の主な取組み

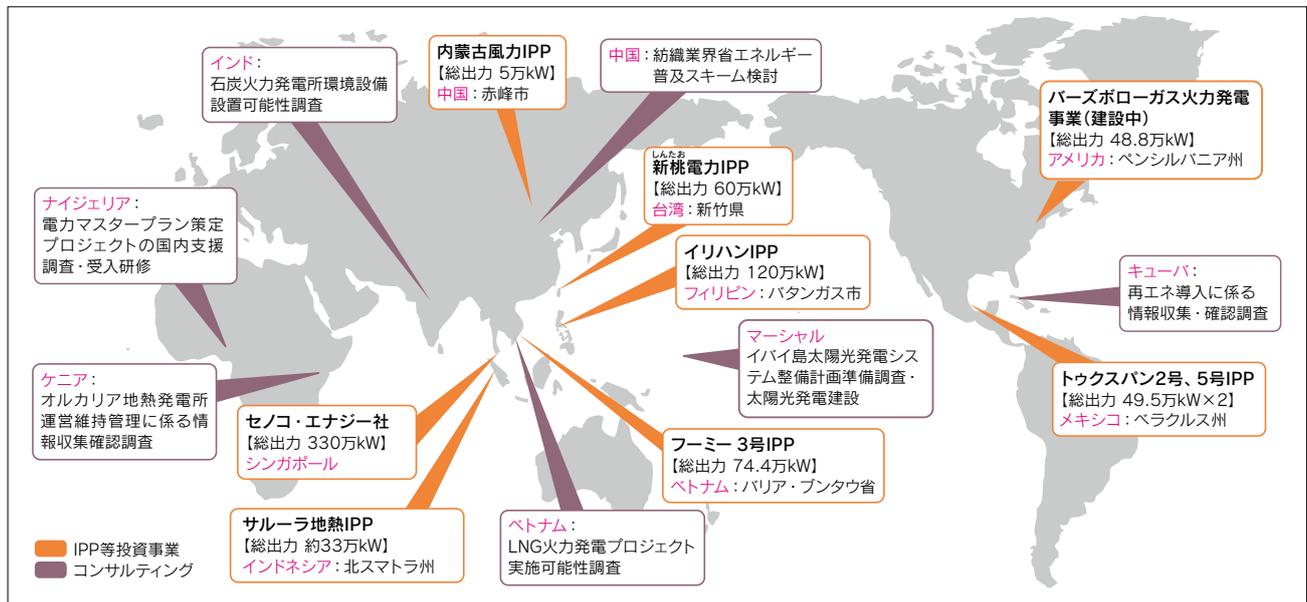
【IPP等投資事業】

- ・インドネシア サルレー地熱IPPプロジェクト
- ・アメリカ バーズボローガス火力発電プロジェクト(建設中)

【海外コンサルティング】(実施者)

- ・ナイジェリア 電力マスタープラン策定プロジェクトの国際支援調査・受入研修(当社)
- ・マーシャル イバイ島太陽光発電システム整備計画準備調査、太陽光発電建設(当社/キューデン・インターナショナル)
- ・中国 紡績業界省エネ普及スキーム検討(当社)
- ・ケニア オルカリア地熱発電所運営維持管理に係る情報収集確認調査(当社/西日本技術開発/西日本プラント工業)
- ・キューバ 再エネ導入に係る情報収集・確認調査(当社/西日本技術開発/キューデン・インターナショナル)
- ・ベトナム LNG火力発電プロジェクト実施可能性調査(キューデン・インターナショナル)
- ・インド 石炭火力発電所環境設備設置可能性調査(キューデン・インターナショナル)

●海外での事業展開 (2017年度)



●九電グループの総合力を活かした海外コンサルティングの積極的展開

2017年度は、当社の特徴である離島電力供給や地熱発電の経験を活かし、キューバの離島の再エネ導入やケニアの地熱発電の運営改善のための調査を実施しました。当社、グループ会社の専門家が一体となり、国内業務と同様に相手国目線で課題、ニーズを絞りこみ、実効性にこだわった解決提案を行っています。コンサルは現地調査だけでなく、研修や技術者交流など、国内でも幅広く活動しています。



キューバ電力セクター向け技術セミナー (JICA研修として当社総合研究所で実施)



ケニア・オルカリア地熱発電所の調査 (JICA調査として運営状況を評価)

グループの経営資源を活用した事業展開

4つの事業領域における会社紹介

九電グループは、エネルギー関連事業として、設備の建設・保守、資機材の調達、ガス・LNG販売や火力発電、再生可能エネルギー等のエネルギー事業を手がけています。また情報通信事業、環境・リサイクル事業、生活サービス事業においても、お客さまや地域のニーズに

即した活動を幅広く展開しています。今後もさらに、グループの経営資源を活用し、お客さまや地域のニーズに即した事業を展開していきます。



企業・IR情報➡九州電力グループのご紹介



エネルギー関連事業

(2018年3月末現在)



設備の建設・保守

九州林産(株) 九電ハイテック 西日本プラント工業(株) 九電産業(株) 西日本技術開発(株) 西技工業(株) 九電プラズファイヤー	西技測量設計(株) 九電工 西九州共同港湾(株) 九電建
--	---------------------------------------



資機材の調達

九電テクノシステムズ(株) 西日本空輸(株) 九州高圧コンクリート工業(株) 光洋電器工業(株)	(株)キューヘン 誠新産業(株) 西日本電気鉄工(株)
---	-----------------------------------



エネルギー事業

(株)キューデン・インターナショナル 大分エル・エヌ・ジー(株) 北九州エル・エヌ・ジー(株) 九電みらいエナジー(株) 串間ウインドヒル(株) 西日本環境エネルギー(株) 長島ウインドヒル(株) 福岡エネルギーサービス みやざきバイオマスリサイクル(株) 下関バイオマスエナジー合同会社 キューシュウ・エレクトリック・オーストラリア社 キューシュウ・エレクトリック・ウィットストーン社 キューデン・サルーラ キューデン・インターナショナル・ネザランド 九電新桃投資股份有限公司	パシフィック・ホープ・ SHIPPING・リミテッド キューデン・パースポロー 鷲尾岳風力発電(株) 宗像アスティ太陽光発電(株) 奄美大島風力発電(株) キューデン・イリハン・ホールディング・コーポレーション 戸畑共同火力(株) (株)福岡グリーンエナジー 大分共同火力(株) 九州冷熱(株) エレクトリシダ・アギラ・デ・トゥクスパン社 エレクトリシダ・ソル・デ・トゥクスパン社 キューシュウ・トウホク・エンリッチメント・インベスティング社 ソヤノウッドパワー(株) (株)千葉袖ヶ浦エナジー	ひびきウインドエナジー(株) 日豪ウラン資源開発(株) 北九州エル・エヌ・ジー・ローリー販売(株) (株)バイオコール熊本南部 豊前ニューエナジー合同会社 ライオン・パワー(2008) 新桃電力股份有限公司 双日パースポロー フーミー3・BOT・パワー・カンパニー 大唐中日(赤峰)新能源有限公司 サルーラ・オペレーションズ オリエント・エコ・エナジー社 セルビオス・デ・ネゴシオ・デ・エレクトリシダ・エン・メキシコ
---	---	--



情報通信事業

(株)QTnet (株)キューデンインフォコム ニシム電子工業(株) 九電ビジネスソリューションズ(株)	(株)アール・ケー・ケー・コンピューター・サービス (株)RKKCSソフト (株)コアラ
---	--



環境・リサイクル事業

(株)ジェイ・リライツ
記録情報マネジメント(株)



生活サービス事業

(株)電気ビル (株)キューデン・グッドライフ (株)キューデン・グッドライフ東福岡 (株)キューデン・グッドライフ熊本 (株)キューデン・グッドライフ鹿児島 (株)キューデン・グッドライフ福岡浄水	(株)キャピタル・キューデン (株)九電ビジネスフロント 九電不動産(株) (株)九電オフィスパートナー 九州メンテナンス(株) 九州高原開発(株)	(株)九電シェアードビジネス (株)九州字幕放送共同制作センター (株)オークパートナーズ 九州住宅保証(株) 伊都ゴルフ土地(株) 福岡エアポートホールディングス(株)	緑ヶ丘リビングサポート(株)
--	---	--	----------------



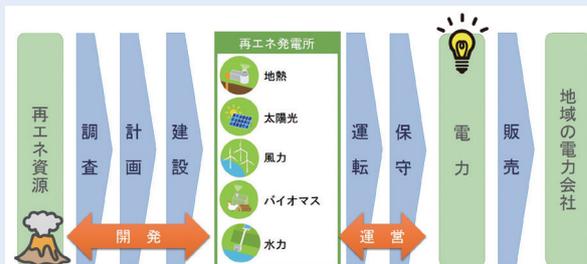
再生可能エネルギーの開発から運営までをワンストップ～九電みらいエナジー(株)～ <https://www.q-mirai.co.jp/>

九電みらいエナジー(株)は、九電グループの再生可能エネルギーの更なる開発推進を目的に、九州電力の再エネ部門を含め、西日本環境エネルギー(株)および(株)キューデンエコソルの再エネ事業を集約し、九電グループの再エネ開発中核会社として2014年7月に設立されました。

九電みらいエナジー(株)の再エネ発電事業は、地熱、太陽光、風力、バイオマス、水力の5電源にわたるとともに、九州電力(株)と連携のもと、九電グループがこれまで培ってきた信頼と技術力を活かし、開発から運営までを一貫体制で行います。

また、潜在的なポテンシャルがある洋上風力や潮流などの海洋再エネ事業についても、技術開発の進展等を踏まえながら取り組んでいきます。

●会社概要



本社	福岡市
資本金	20億6,955万円
株主	九州電力(株)100%
設立日	2014年7月1日
従業員数	123名(2018年3月時点)
事業内容	再生可能エネルギー発電事業 小売電気事業
自社保有発電所	16発電所(49,593kW)

【主な取り組み事例】

●自治体との協働により魅力ある地域づくりに貢献

大分県玖珠郡九重町が、菅原地区に所有する地熱井の有効活用策について九州電力(株)と協働で検討・調査を行い、九電みらいエナジー(株)が、地熱バイナリー発電所(出力5,000kW)を建設し、運営管理を実施しています。



発電設備の外観

●震災復興のシンボルに

東日本大震災の津波による塩害で、農業などが困難となった福島県相馬市の土地を有効活用し、九電みらいエナジー(株)、(株)九電工、オリックス(株)など5社が共同設立した合同会社は、レナトス相馬ソーラーパーク(出力43,500kW)を建設し、2017年6月に運転開始しました。



【海洋再エネへの取り組み事例】

●洋上風力発電プロジェクト始動

九電みらいエナジー(株)、電源開発(株)、(株)九電工など5社が共同設立したひびきウインドエナジー(株)は、福岡県北九州市の響灘で港湾法改正後初となる洋上風力発電プロジェクトを進めています。最大44基22万kWの風車建設を目指し、既に風況観測や海域調査、環境影響評価を進めています。



●潮流発電の実用化へ

九電みらいエナジー(株)、新日鉄住金エンジニアリング(株)など4社のコンソーシアムは、長崎県五島市沖で国内初の大規模潮流発電実証事業(環境省公募)を進めています。現場海域の潮流調査、発電機の設計・製作などを経て、2019年度に発電機(2,000kW級)を設置して実証運転を行う予定です。



風力発電事業 ～長島ウインドヒル(株)～ <http://www.q-mirai.co.jp/>

長島ウインドヒル(株)は、九電みらいエナジー(株)、九州電力及び(株)九電工が共同出資している風力発電事業会社です。本プロジェクトが開発された長島町は鹿児島県の北西部に位置し、東シナ海に面していることなどから、年間を通して、安定した風況に恵まれ、風力発電には好適地です。

この長島町の山間部に、総出力50,400kW(2,400kW×21基)の国内最大級の風力発電設備を有し、運転を行っています。(年間発電量は1億kWh程度、一般家庭約3万世帯分)



鶏ふん発電事業 ～みやざきバイオマスリサイクル(株)～ <http://www.q-mirai.co.jp/>

みやざきバイオマスリサイクル(株)は、宮崎県川南町で九電みらいエナジー(株)と県内の養鶏農家の方々が共同で運営している鶏ふんを利用したバイオマス発電事業会社です。年間約13万トンの鶏ふんを発電所燃料として使用し、「年間約6,000万kWh(一般家庭約17,000世帯分の電気)」と「焼却灰(肥料原料)」の販売を行っています。

この地元の畜産業との連携したリサイクル事業により、家畜排せつ物による地域環境問題の解決を図るとともに、鶏ふんをエネルギー変換することによって、地球温暖化防止にも貢献しています。



みやざきバイオマスリサイクル発電所

● 鶏ふん発電事業の効果

焼却による減量化(1/10以下)と焼却灰肥料による資源循環

化石燃料の代替による温室効果ガス(CO₂)の削減

地域循環負荷の軽減(悪臭・地下水の影響など)

海外発電プロジェクト事業 ～西日本技術開発㈱～ <http://www.wjec.co.jp/>

西日本技術開発㈱は、土木、建築、火力、原子力、地熱、環境の6つの技術部門からなる電力・環境・社会基盤の総合コンサルタントとして、幅広く九州の電力事業と社会基盤整備を支えています。

当社では、海外発電プロジェクトにも力を入れており、国内で培った経験と最新技術を活かして、経済的で信頼性の高い電力供給と環境保全に貢献するべく、確かな技術力を世界に向け発信しています。これまでに、アジア、ラテンアメリカ、アフリカ等で、地熱発電開発を主体に事業化可能性調査、基本設計、詳細設計、発電プラント建設監理、改修プロジェクト計画等を行ってまいりました。現在、再生可能エネルギーへの関心が高まっている中、海外での地熱発電開発の支援にも積極的に参画しており、インドネシア、コスタリカ、ニカラグラ、ケニア、エチオピア等での業務に携わっています。



ウルブル地熱発電所(インドネシア)

電力輸送設備保全事業 ～(株)九電ハイテック～ <http://www.kyuden-tech.co.jp/>

(株)九電ハイテックは、九州電力の水力発電所・送電線・変電所の設備保全を行い、電力の安定供給を支えています。

当社は、設備の保全業務を計画から実働まで一貫して行っており、膨大な設備の中から異常兆候を早期に発見したうえで適切な補修を行うなど、停電の未然防止に努めています。

当社が保有する高い保全技術力を活かし、九州電力の電力輸送部門と「車の両輪」として、「電力輸送設備を利用される全てのお客さまの電力を安定してお届けする」という使命のもと、日々の保全業務に取り組んでいます。



情報通信事業

電気通信事業 ～(株)QTnet～ <http://www.qtnet.co.jp/>

(株)QTnetは、九州において、個人のお客さまには光ブロードバンドサービス「BBIQ(光インターネット/光電話/光テレビ)」やモバイルサービス「QTモバイル」、法人のお客さまには「QT PRO」としてVLAN等の回線サービスからネットワーク構築、機器の保守・運用、セキュリティサービスなど、お客さまに最適なICTソリューションをトータルで提供しています。

特に「BBIQ」については、顧客満足度に関する国際的な専門機関であるJ.D.パワー社の「日本固定ブロードバンド回線サービス顧客満足度調査」において、2年連続で九州エリア1位に選ばれるなど、多くのお客さまにご愛顧いただいております。

今後も情報通信が持つ可能性を追求し、未来を拓く新たな“光”を九州から発信することで暮らしに、ビジネスに“感動品質”をお届けしてまいります。



「きらきら、つながる。」 **QTnet**

データセンター事業、ITコンサルティング事業 ~ (株)キューデンインフォコム ~ <https://www.qic.co.jp/>

(株)キューデンインフォコムは、高度なノウハウとインフラを駆使した先進のITを活用し、データセンター事業及びITコンサルティング事業に取り組んでいます。

データセンター事業では、全国的に災害リスクが低い福岡の地域特性を活かし、地震や停電に強く、厳重なセキュリティにより、お客様のシステムやデータを安心してお任せいただける各種サービスをご提供しています。

2019年には、「姪浜」と「福岡空港」に加え3拠点目となる「Qicデータセンター博多駅」を運用開始し、「災害に強い信頼の都市型データセンター」として、高信頼ファシリティと安心のサポート体制でお客様にご満足いただけるサービスをご提供していく予定です。また、ITコンサルティング事業では、高い技術力や信頼性などの強みを活かし、九州の企業や自治体に対してIT化の企画提案のほか、情報セキュリティ対策強化として「標的型攻撃メール訓練サービス」や年々増加する外国人観光客への対応として「多言語通訳サービス」をご提供しています。

今後も「お客様から選ばれ、信頼される企業」であり続けるため、先進のITを活用したベストソリューションを提案・提供し、九州の発展に貢献していきます。



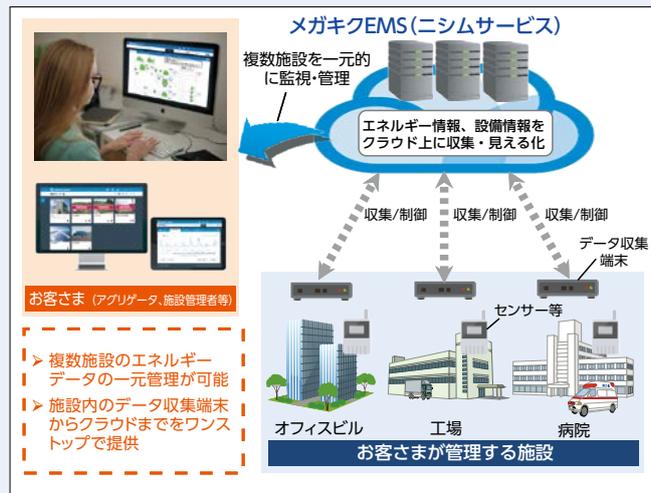
情報通信ネットワーク構築・監視・保守事業 ~ ニシム電子工業(株) ~ <http://www.nishimu.co.jp/>

ニシム電子工業(株)はこれまで、ネットワークや設備の監視制御技術をパッケージ化したサービス『メガキク』を提供してきました。

東日本大震災以降、全国的にエネルギーの多様化が進み、エネルギーの最適管理による省エネの推進機運も高まる中、当社は2016年4月よりエネルギー管理サービス『メガキクEMS』の提供を開始しました。

このサービスはビル、工場等のお客様施設内のエネルギー機器・設備の運転やエネルギー使用状況をクラウド上に「見える化」し、施設全体の省エネ促進やエネルギー利用効率化によるCO₂削減を支援するものです。

今後も、今まで培ってきた監視・制御技術やネットワークの技術力を活用し、社会に貢献していきます。



情報システムソリューション事業 ~ 九電ビジネスソリューションズ(株) ~ <https://www.qdenbs.com>

九電ビジネスソリューションズ(株)(QBS)は、九州電力の情報システム会社として、高度の安定性・信頼性が要求される九州電力の基幹系システムの開発から運用、保守・サポートに至る幅広い業務を担っています。

また、これらの業務で培った技術力を活用し、航空運輸業・製造業等の一般企業に対しても、

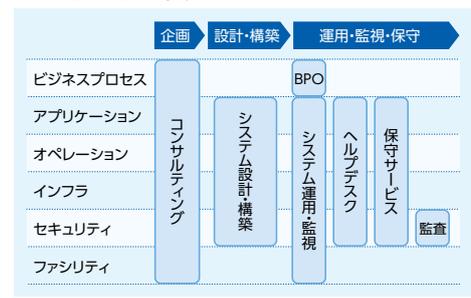
- 航空運輸業向けソリューション
- 製造業向けソリューション
- 建設業向けソリューション
- システム監視ソリューション
- 業務パッケージ・サービス

などのソリューションサービスを提供しています。

今後も、情報セキュリティや個人情報保護など、企業の社会的責任を自覚し、お客様や地域社会に貢献していきたいと考えています。

システムのトータルなソリューションを提供!

- 既存システムや業務の分析・企画から開発、インフラ構築、運用・保守、監視までトータルなソリューションを提供しています。





環境・リサイクル事業

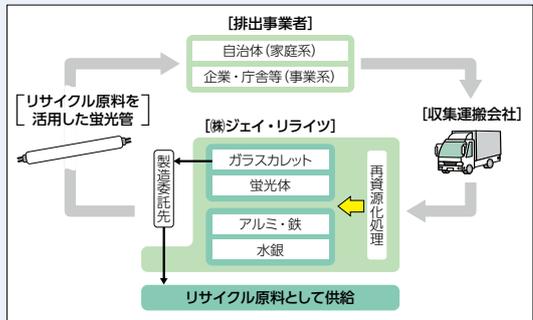
使用済蛍光灯リサイクル事業 ～(株)ジェイ・リライツ～ <http://www.j-relights.co.jp/>

(株)ジェイ・リライツでは、企業や学校及び自治体等から回収した使用済の蛍光灯を可能な限り元の原料(ガラス・蛍光体・水銀・金属類)に戻すリサイクル事業を行っています。

また、再生蛍光体・ガラスを使用した「よかランプ」、「トップスター(グリーン購入法適合)」の製造(社外委託)・販売に取り組んでいます。その他、再資源化の要望が高い使用済乾電池のリサイクル事業も行っています。

引き続き、技術革新を進め、「環境汚染の防止、資源循環・低炭素社会への貢献」を目指し弛まぬ努力を続けてまいります。

●「ランプtoランプ」を目指す蛍光灯リサイクルの概要



記録情報の総合マネジメント事業 ～記録情報マネジメント(株)～ <http://www.kemc.jp/>

記録情報管理のワンストップサービスをご提案します

企業が自然災害などの緊急事態に遭遇した時に事業の継続を全力で守るための行動計画であるBCP(事業継続性)対策や情報の流出、漏えいなどのセキュリティインシデント(事件・事故)対策。弊社はこれらの対策として、皆さまの大切な経営資源である記録情報を消滅・流出などから守るお手伝いをし、事業継続のパートナーとして、万全なセキュリティ体制で、皆さまに「安心」「安全」なサービス(文書量調査・整理、紙文書の電子化、文書保管(紙・電子)、機密文書廃棄)をご提供いたします。



事業概要



生活サービス事業

有料老人ホーム事業 ～(株)キューデン・グッドライフ～ <http://www.kyuden-gl.jp/>

(株)キューデン・グッドライフでは、本格的な高齢社会を迎える中、お客さまに充実したシニアライフをお送りいただくため、上質な居住空間、充実した生活支援や医療支援体制など、安心して快適な生活の場と高品質のサービスを提供する「有料老人ホーム事業」を展開しています。これまで、福岡県福津市、熊本市、鹿児島市、福岡市浄水地区の4地点で開業し、4施設設計で、健康なシニアのための居室約500室のほか、介護が必要になった場合にも安心な介護居室約150室をご提供しています。

シニアの皆さまの元気で生き生きとした、自由で活力に満ちた生活を一生懸命支えていきたい、それが私たちの思いです。



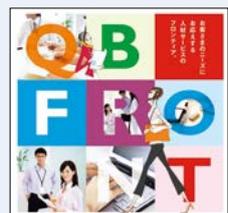
グランガーデン福岡浄水

総合人材サービス事業 ～(株)九電ビジネスフロント～ <http://www.qbfront.co.jp/>

(株)九電ビジネスフロントは、総合人材サービス会社として、2002年設立以来、企業や働く人々の個別ニーズを捉え、きめ細かなサポートに務めています。

事業環境の急速な変化や激しい競争の中、企業はスピードと柔軟性を備えた組織に「変化」させていくことが求められています。そのためには、自社内外の人材を効果的に活用することが必要です。

(株)九電ビジネスフロントでは、主力の人材派遣・人材紹介事業を中心に、施設運営・式典などのアウトソーシング事業、キャリアデザイン研修・キャリアコンサルティング技能士受験対策講座などのキャリア支援事業、ビジネスの基礎から応用まで目的に合わせた教育・研修事業などさまざまな事業を通じ、人材に関する多様なサービスを提供しています。また2017年からは、新たにコンビニエンスストア事業にも進出しています。



いつもあなたのすぐそばで。 九電グループがスタンバイしています。

街路灯

環境にやさしいLED街路灯。ランプの長寿命化が期待でき、しかも省エネ!

光洋電器工業(株)では、従来の水銀灯を廃止し、環境にやさしいLED電球を使用した街路灯の製造販売を行っております。電球の寿命は約40,000時間と、メンテナンスの負担軽減と電気料金の軽減も図れます。

光洋電器工業株式会社

TEL: 0120-585-123 <http://www.koyode.co.jp/>



エコキュート

地球に優しい、あなたに嬉しい、エコキュート!

省エネ給湯機でおなじみのエコキュート。(株)キューヘンでは、家庭用給湯機のブランド「ユノカ」でエコキュートを販売しています。あたたかな湯の香る豊かな暮らしという名前の由来のとおりユノカ製品は、グリーンで快適な生活環境の実現をお手伝いします。多様化するライフスタイルやニーズに応え、より使いやすくより環境に優しい製品をご提供します。

株式会社 キューヘン

TEL: 0940-34-3252 <http://www.kyuhen.jp/>



食料品製造・販売事業

九州のこだわり名産品をお届け!

九州各地に伝わる伝統料理、天然の山海の幸、素材をいかした加工品、本格焼酎、伝統的なお菓子から最新のスイーツまで。九電産業(株)では、九州各地を訪ねて、ひとつひとつ発掘した本当に「いいもの」の数々をショッピングサイトを通じて全国の皆様へお届けいたします。



九州のこだわり名産品をお届け!

こだわり九州

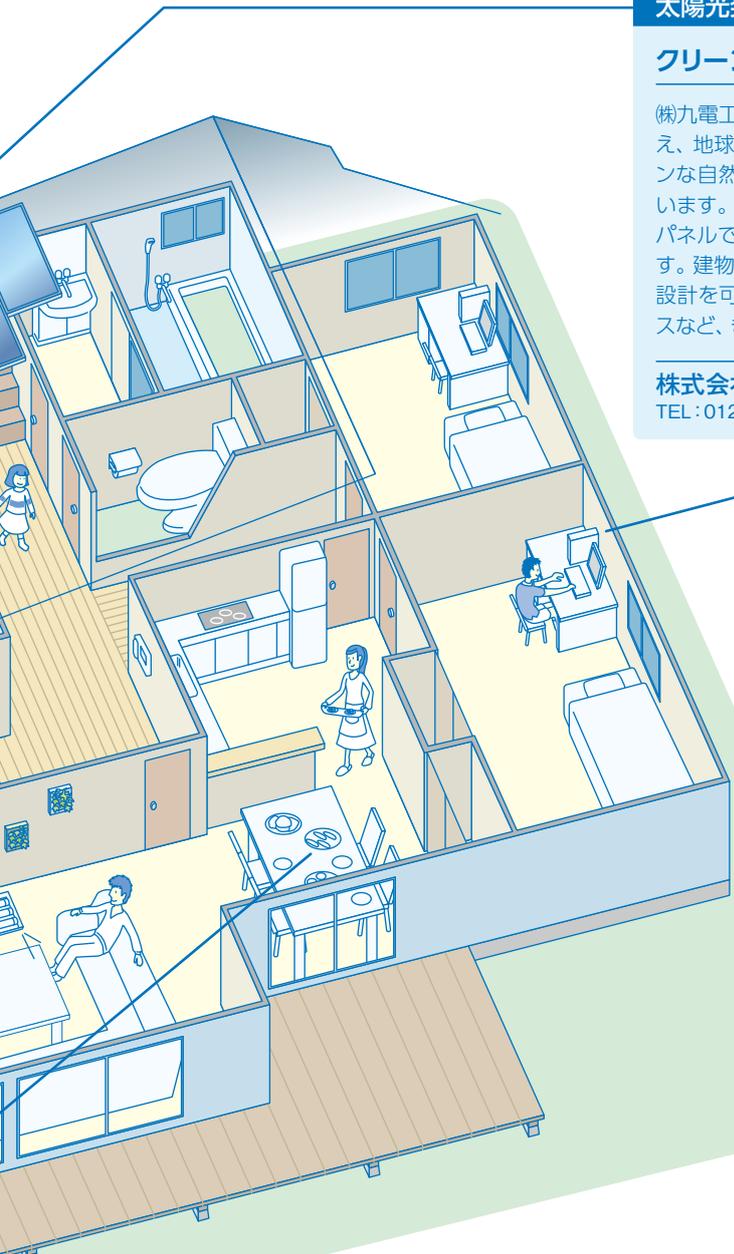
検索

<http://www.kodawari-q.com/>



九電産業株式会社

☎ 0120-66-9393



太陽光発電

クリーンな自然エネルギーを九州へもっと広めていくために

㈱九電工では、配電・電気・空調管の主要事業に加え、地球温暖化やCO₂排出削減に貢献するクリーンな自然エネルギーの導入も積極的に推進しています。そのひとつが、屋外に設置した太陽電池パネルで電気を発生させる太陽光発電システムです。建物の大きさや電力需要にあわせて、自由な設計を可能にする工法から、設置後のメンテナンスなど、きめ細やかなシステムを提案しています。



株式会社 九電工

TEL : 0120-417-905 <http://www.kyudenko.co.jp/>

光ブロードバンドサービス

BBIQで快適 魅力ある光ブロードバンドライフを!

「BBIQ」は九州電力グループのQTnetがお届けする光ブロードバンドサービス。インターネットや電話はもちろん、多彩なチャンネルラインナップが魅力の光テレビなど、九州にお住まいの皆さまの暮らしをもっと楽しく、もっと快適にしていきます。

株式会社 QTnet

TEL : 0120-86-3727 (QTnet お客さまセンター) <http://www.bbiq.jp/>

オール電化住宅分譲

“E-Quality”をコンセプトに、 安心と信頼で選んでいただける 住まいづくりに取り組んでいます。

九電不動産㈱では、大規模住宅地の開発や九州電力の社宅・寮の保有・管理などを通じて獲得した住環境に関するノウハウを活かし、お客様のライフスタイルに合わせたオール電化住宅を提供しています。人と地球環境との調和した住まいづくり、街づくりを目指しています。

E-Qualityとは

E-cology : 環境にやさしいこと
E-electric : オール電化の安全性
E-economy : 効率の良い経済性



グランドオーク寺塚サウス

九電不動産株式会社

TEL : 092-761-4060 <http://www.qfk.co.jp/>

建築確認・住宅性能評価

建物づくりに 信頼と安心をお届けします。

九州住宅保証㈱では、建築基準法に基づく指定確認検査機関として、建築確認・検査業務及び適合証明業務を行うとともに、指定構造計算適合性判定機関としての業務を行っています。また、公正・中立な立場で住宅性能評価を行うとともに、長期優良住宅、低炭素建築物、BELS等の技術的審査サービスをワンストップで迅速に提供し、お客さまサービスの向上、付加価値のついた良質な住宅の提供を行っています。

九州住宅保証株式会社

TEL : 092-771-7744 <http://www.kjhc.co.jp/>